

平成25年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

三次市立吉舎 中学校

1 国語

学年	【教科指導について】 〔目標，結果については，全国平均との差を記入（％）〕 これまでの取組の成果 課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
		目標	結果		
第1学年	話す・聞く能力	1	1.3	・「国語の勉強をしたことで，生活の中で役にたつと感じる」と答えた生徒は8割をこえている。 ・月に1冊も本をほとんど読まないと答えた生徒が2割弱いる。	・学力的に課題のある生徒については，基礎的な漢字，言語を身につけるよう，日々の学習を積み上げていく。 ・長い文章をしっかりと読んでいくことに課題のある生徒が多いので，じっくりと文章をよむ時間を授業の中で，必ずもつ。
	書く能力	4	-3.8		
	読む能力	3	1.7		
	言語	2	-1.1		
第2学年	話す・聞く能力	5	6.9	・「国語の勉強は，生活の中で役に立つ」ととらえている生徒は7割を超えている。 ・「わからない言葉があるときは国語辞典を使いますか」という質問に対して「使う」と答えた生徒が50%に達していない。	・「書く」ことについては引き続きじっくりと読み，書く時間を保障していく。 ・また，基礎的な力をつけるために，辞書を使うことや漢字練習，視写などを確実にやっていく。
	書く能力	5	-4.1		
	読む能力	8	5.2		
	言語	9	2.7		
全体	読む能力については2学年とも全国平均を上回った。じっくりと本文を読んだり，キーとなる言葉や文を繰り返し読ませたことの成果と考える。 書くことについては，両学年とも全国平均を下回った。			・「国語の勉強は，生活の中で役に立つ」ととらえている生徒は多い。しかし，具体的に辞書を使ったり，本を読んだりするということができない生徒の割合が多い。	・「書く」ことを，1教材に1回以上設定していき，書くことの抵抗感をなくしていきたい。 ・言語活動にかかわることを積極的に取り組み学習への意欲を高めたい。

2 社会

学年	【教科指導について】 〔目標，結果については，全国平均との差を記入（％）〕 これまでの取組の成果課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
		目標	結果			
第1学年				<p>アンダーライン学習等で基本的な知識の定着は出来ている。</p> <p>基本的な知識の定着を重点的にしたため，技能や思考・判断の力がやや弱い。</p>	<p>・全国平均と比べ，「社会科が好きである」と割合は低いが，「生活に役に立つ」と感じ，新聞などに関心を持っている生徒は多い。また，地名等を地図帳で調べる生徒の割合は低いが，歴史に関する本を読む生徒は多い。</p>	<p>・アンダーライン学習で技能や思考・判断に関する小テストを行う。</p> <p>・地理に興味を持たせる教材や調べ学習を取り入れる。</p>
	思考・判断	2	1.7			
	技能	2	0.4			
	知識・理解	3	3.5			
第2学年				<p>全国平均と比べ，すべての領域で平均を下回っている。しかし，技能や思考・判断の力の差は小さい。また，日本地理の得点が低い。</p>	<p>・「社会科が好きである」と答えた生徒の割合を含め，すべての質問で全国平均を下回っている。</p>	<p>・社会科に興味関心を持たせるため，写真，具体物など視覚的教材を使った授業展開を行う。</p> <p>・テーマに基づき，調べ，まとめる活動を取り入れる。</p>
	思考・判断	8	-1.8			
	技能	4	-0.6			
	知識・理解	6	-3.5			
全体	<p>1年においては，すべての領域で全国平均を上回った。</p> <p>2年においては，すべての領域ですべての領域で平均を下回っている。また，日本地理の得点が低い。</p>			<p>・「社会科が好きである」という生徒の割合は低いが，「役に立つ」ととらえる生徒は割合は高い。地名等を調べる生徒の割合は低いが，歴史に関する本を読む生徒は多い。</p>	<p>・社会科に興味を持たせる教材や授業作りを行う。</p> <p>・アンダーライン学習を改善し，技能や思考・判断の力をつける。</p>	

3 数 学

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入（％）〕 これまでの取組の成果 課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	目標	結果			
第1学年				・「数学が好き」と答えた生徒が64.6%で、全国平均よりも上回っている。 ・別の解き方も考えると答えた生徒は54.5%であり多様な考えを出せる授業づくりをしていく必要がある。 ・解けなかったときに繰り返す生徒が58.1%で、全国平均よりも9.4ポイント下回っている。	・毎時間の小テストに図形の用語の確認を入れて定着を図る。 ・単元ごとに活用問題を取り入れ、小集団の活用や発表する場面を取り入れた授業づくりを行う。
	考え方	3	3.1		
	技能	1	5.9		
	知識・理解	2	2.9		
第2学年				・「いろいろな考え方を発表し合うことが好き」と答えた生徒が33.3%と、全国平均より7.4ポイント下回っている。また、「別の解き方を考える」と答えた生徒も42.4%と低く、自分の考えを持たせ、発表させる場をつくる授業改善が必要である。	・段階別の証明プリントを作成し、定期的に確認テストを実施する。 ・全国学力学習状況調査のB問題等を活用し、グラフのよみ取りを行う。 ・定期試験に活用問題を1問以上取り入れる。
	考え方	7	7.1		
	技能	3	11.3		
	知識・理解	3	11		
全体	全学年、毎時間計算の小テストを実施しており、基本的な計算は定着してきている。 関数についての基本的な理解はできている。 図形の用語の説明や証明問題など、記述式の問題が弱い。 理由の記述や自分の考えを数学的用語を用いてまとめることが弱い。			・数学が好きと答えた生徒は全国平均よりも上回っている。 ・別の解き方を考える生徒が少なく、多様な考えやお互いの意見を共有することが苦手な生徒が多い。	・各単元で活用問題を取り入れ、問題解決の場面では小グループによる交流を行わせる。 ・ノート指導を通して、自分の考えを書かせる活動を取り入れる。

4 理 科

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入(%)〕 これまでの取組の成果課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
		目標	結果			
第1学年	思考・科学的	1	-1.1	<p>復習プリント等の繰り返し学習の成果として、基礎では目標値を3ポイント以上上回っている。</p> <p>活用のうち特に表現力が目標値を10ポイント以上下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理科の勉強が生活で役立つと感じることがあると答えた生徒が32.3%と全国平均を10.6ポイント上回っている。 理科の勉強が好きだと答えた生徒が16.1%で全国平均より14.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や実験・観察において思考させる場面を増やし、自作プリントに自分の考えを文章で記入させる。 理科ノートを活用の仕方を指導し、家庭学習に取り組みさせる。 引き続き復習プリントに取り組みさせる。
	技能	1	-0.2			
	知識・理解	3	1			
第2学年	思考・科学的	1	10.4	<p>復習プリント等の繰り返し学習の成果として、基礎では、目標値を8ポイント以上上回っている。</p> <p>活用のうち思考・判断力が目標値を1.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目で、1と2の合計が全国平均を下回っている。特に、理科の授業が好きだと答えた生徒の割合が全国平均より32.3ポイント、実験や観察をすることが好きと答えた生徒の割合が全国平均より21ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や実験・観察において思考させる場面や、自作プリントに自分の考えを記入させる場面を増やす。 実験・観察の器具を増やしたり、作業の分担を徹底させるなど、多くの生徒が活動できるように工夫する。
	技能	2	9.6			
	知識・理解	4	5.8			
全体	<p>理科ノートを使った学習方法の指導や日常の復習プリントや定期試験前の復習プリントによる学習方法の指導により、基礎や知識・理解の問題への対応力についてはついてきている。</p> <p>表現力と思考・判断という学年による違いはあるものの、活用の問題に弱い。</p> <p>既習事項や実験・観察の結果から科学的に思考する問題や実験・観察の表現を問う問題に課題がある。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 1年生の理科の勉強が生活で役立つと感じることがあると答えた生徒の割合が多い以外は、どの項目も肯定的な生徒の割合が全国平均に比べて低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が思考したり、思考内容を表現するための時間を確保するとともに個人での思考に加えてペアや班での思考場面を設定する。 理科の授業に対する興味や関心を高めるために、例えば実験・観察を行う授業を増やしたり、生徒の興味・関心を引くような授業の導入を行うなどの工夫をする。 	

5 英語

学年	【教科指導について】 〔目標，結果については，全国平均との差を記入（％）〕 これまでの取組の成果課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	目標	結果			
第1学年	表現の能力	4	9.9	・「ALT と英語で会話しようとする」84%，「英語が役に立つ」71%，「英語が好き」61%，「辞書を使う」39%となっている。 ・英語に関して肯定的な評価をしている。授業で辞書を活用する習慣をつけていない。	・ペアによる口頭ドリル練習を継続し基本単語や文型の音読を繰り返す。 ・まとまった英語を聞く場面を増やす。 ・単語の書き取りを徹底する。 ・単語の並べ替え学習を中心に基本文型が書けるようにする。 ・辞書を常に使える状況をつくる。
	理解の能力	2	5.1		
	知識・理解	3	3.5		
第2学年	表現の能力	10	18.9	・「ALT と英語で会話しようとする」88%，「英語が役に立つ」67%，「英語が好き」52%，「辞書を使う」36%となっている。 ・英語に関して肯定的な評価は低い，英語でコミュニケーションをとろうとする意欲が高い。授業で辞書を活用する習慣をつけていない。	・ペアによる口頭ドリル練習を継続し基本単語や文型の音読を繰り返す。 ・ペアによる対話を増やし楽しみながら使える英語を身につけさせる。 ・基本文型を用いて40単語以上のまとまりのある文を書く機会を増やす。 ・ミニ長文問題を取り入れる。 ・辞書を常に使える状況をつくる。
	理解の能力	5	9.2		
	知識・理解	6	12.9		
全体	各学年とも全領域・全観点において目標値を上回っている。毎時間の単語・基本文型ドリル学習，音読試験，毎日の1P学習の成果だと考えられる。 1学年は市平均より2.4ポイント低く基本単語が正確に書けていない。各学年とも「読むこと」の長文読解が弱い。基礎的な単語と基本文の構成（単語の並べ替え）の中には正答率の低いものがあった。			・英語でコミュニケーションをとろうとする意欲は見られ，全体的には肯定的な評価をしている。 ・常に辞書を活用できる状況をつくっていない。	・単語・基本文型を中心としたドリル学習により単語・基本文型の正答率を50%以上にする。 ・効果的に自主学習ができるように宿題の出し方を工夫する。 ・定期的に視聴覚教材を使って学習意欲を喚起する授業を計画する。 ・辞書を常に使える状況をつくる。

6 生活と学習に関する意識・実態

学年	一層定着させたい点 改善したい点	課題に対する具体的な取組
第1学年	<p>「学校が好きだ」と答えた生徒が87.1%と全国平均より8.7%上回った。</p> <p>「授業がわかる」と答えた生徒が71.0%で、全国平均を上回った。</p> <p>「平日の家庭学習の時間1時間未満」の生徒が41.9%であり、「まったくしない」と答えた生徒が3.2%である。</p> <p>家庭学習を「宿題がなくてもする」と答えた生徒が45.2%と全国平均よりも22.3%低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会と各教科担当と協力をし、宿題を出し切らせる指導を行う。 ・吉舎中スタンダードによる学習計画を立てさせ計画的に学習を進めるほか、保護者との連携を密に行い、家庭学習の定着を図る。 ・自主学習ノートを徹底させ、家庭学習の習慣化と課題を見つける力や書く力を身につけさせる。
第2学年	<p>「勉強すれば、自分のふだんの生活や社会に出て役立つ」と思う生徒は、91%と全国平均より10%以上高い。</p> <p>「分からないところでも自分の力で答えを見つけられるように勉強したい」と答えた生徒が81.8%と全国平均より7.2%高い。</p> <p>「平日の家庭学習の時間が1時間未満」の生徒が51.6%であり、「まったくしない」生徒は15.2%である。</p> <p>家庭学習で「宿題以外もする」と答えた生徒が45.5%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受験を意識した課題を提示し、家庭学習1時間以上をめざす。 ・自主学習ノートを効率的にできるよう、モデルノートを示すなど、自主学習が習慣化するように個別への指導を行う。 ・課題未提出者に対して、個別指導を行い出し切らせる指導を行う。
全体	<p>学校の授業がわかると答えた生徒が60%であり、理解しようと意識して授業に臨む生徒が多い。</p> <p>家庭学習1時間未満の生徒の割合が半数近くであり、まったくしない生徒も10%程度いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の目標を考えさせることで、将来についての意欲づけを行う。 ・吉舎中スタンダードを活用した学習計画を継続して行っていく。 ・組織的な自主学習ノート指導を行うことで家庭学習の定着を図る。 ・学年会と教科担当の連携を図り、提出物未提出者への指導を行う。